

従来から保存修復や歯冠補綴は、日常臨床において毎日のように繰り返し行われてきた歯科診療の柱となる行為です。近年、審美修復やミニマル・インターベンション等の概念とともに、新たな材料やテクニックが普及し、処置の選択肢も一層の広がりを見せています。しかし、支台歯形成という基本的な行為がなくなったわけではありません。むしろ、新しい材料やテクニックに合わせた形成が求められていることも事実です。

そこで、支台歯形成をベーシックの部分から捉えなおすとともに、新たなテクニックや考え方に基づいた理想的な手法も紹介すべく、『支台歯形成——次世代に向けて』を企画いたしました。

初めの「座談会 支台歯形成のこれから」では、編集委員4名が集まり、支台歯形成の将来を見据えた活発な議論を行いました。

「修復種別支台歯形成」では、レジン充填やインレー・アンレー、ラミネートベニアなど、さまざまな修復処置があるなかで、効率的で確実な形成を行うために、それらを項目ごとに1つの章にまとめて紹介しております。

また、前歯、犬歯、小臼歯、大臼歯と形態に違いのある歯牙における形成のために「口腔内の部位別による形成の違い」として、詳細に解説いたしました。

支台歯形成を語るうえで欠かすことのできないポイントとして、形成用器具の紹介やマージン設定位置など、10項目にまとめています。

いずれの項目も日常臨床で多くの症例をこなしておられる先生方にご執筆いただき、日常臨床に即したわかりやすい内容となっております。本書をご一読いただくことで、読者の先生方が行う支台歯形成の一助となれば幸いです。

2009年7月
編集委員一同
